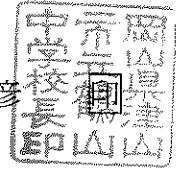


平成25年度 津山市立鶴山中学校 学校評価書

校長 山田 泰彦



1 自己評価

I 評価結果

- ①「確かな学力の育成」について
 - ・学習規律については、「チャイム着席」「私語」等の継続指導と家庭への協力要請をしていく必要がある。
 - ・校内研究授業を3回実施し、「わかる授業」の研修を深めて、さらに、それぞれの教科の授業改革を図る必要がある。
 - ・復習と家庭学習の定着をより推進するために、「学習の手引き」を活用し、家庭の協力を得る必要がある。
- ②「居心地の良い生活環境の確立」について
 - ・いじめや暴力行為が起こらないように、教職員が常に目配り・気配りをし、生徒の心に寄り添った指導をしていく必要がある。
- ③「豊かな心の育成」について
 - ・当たり前のことが当たり前に、行えるような集団づくりと、挨拶ができ、いじめのない、思いやりを大切にする生徒を育てていく必要がある。
 - ・道徳教育、人権教育に力を注ぐ必要がある。
- ④「開かれた学校づくり」について
 - ・今年度のように、保護者だけでなく、地域の方々に学校へ足を運んでくださるような取り組みが必要である。

II 分析・改善方策

- ・学力向上に向けて、「授業しつけ」「授業改善」「小中連携」「家庭学習」「道徳教育」をキーワードとして、様々なことに取り組んでいきたいと考えている。

2 学校関係者評価委員会

- | | |
|----------------|---------------|
| ・松浦 秀直（元南小校長） | ・井上 郁子（愛育委員） |
| ・藤田 美穂（保護者） | ・田中知佐子（元保護者） |
| ・川戸 一利（前PTA会長） | ・中塚 禎人（PTA会長） |
| ・井上 勝（民生委員） | |

3 学校関係者評価

- ・教職員が、丁寧な授業や雰囲気づくりをしている。一部の生徒に、ルールの指導や学力を粘り強く指導する必要がある。
- ・「学習の手引き」や「春休みの課題」など取り組んでいる。
- ・挨拶がよくできる。

4 来年度の重点取組（学校評価を踏まえた今後の方向性）

- 確かな学力の育成
 - ・学習規律と授業改善に取り組んだが、はっきりとした結果を出すところまでには至っていない。「わかる授業」の実践のため、より一層の研修が必要である。
 - また、学習規律の徹底を図ることも必要である。
 - ・「魅力ある授業づくり徹底事業」の推進を図る。
 - ・「学習の手引き」の活用をすすめる。
 - ・「家庭学習の手引き」を作成し、活用をすすめる。
- 豊かな心の育成
 - ・道徳の時間を年間計画によりすすめるとともに、教材の研究をする。
 - ・体験活動を経験することで、豊かな心の育成をする。
 - ・生徒会活動を活発にし、生徒と職員が一体となって、自分たちの日頃の生活を向上させる取り組みをすすめる。
- 家庭・地域との連携
 - ・PTA・地域ネットワーク・関係機関との連携をより密にしていく。
 - ・学校だより、ホームページの活用をより充実させる。